

俳諧
多仁左之集



⑤

叙

中々自今修る集らるる曲あるのあり
 なるものありて叙多めなりてさるる
 耳順の集りて何のありぬるや
 つらふのきん俸ある者ありの
 たりきし百人の名の録事とらる
 代の末ある人何れかの眼を
 今さらし言のなす所法字も様も
 ありしものありにぬる事色し一草



碧水画

整々鳴鴈度長空
楓樹江邊葉々紅
月脚忽々方易暮
寒鴉乱噪小林中

暮秋 東城薰 印 鞋

六十翁 清瀧氏

月夜を綴りて十字字結
花乃春 更松高 一能

六十翁 柴田氏

窓のそとに夕婦也事了地
友同也 系中舎是考

六十翁 丸山成清

眼も年七八重の尻み、汗
冬乃端示 大崎堂是奇

法の度でいひまは
老の急痛 祖月

クニ見村 酒井氏

集りてく妙有 影山
行ふも如く少一曆

キリハラ住

今をててな 十三年
まむ柳の舞

三輪村 雲津閣

飯山 一山亭

患 せんりし梅
あゝなるは廿一

同 アタゴ町 住

はるの夜は
木根比 志は

同 見秋菴

空也見下 月
向雲来少

去るもや高千

南明

去る日のを此うらむ

飯山 無風舎

枯るやう伝き

笑

去る白き折去る歌

同

手折強き必也

牧藜

死生強き必也

キリ原村 佳人

イナツミ 成田九郎兵工

萬葉の鳥帽の子

一句

萬葉の鳥帽の子

イナツミ 金子市兵工

春の心 西海の

子山

春の心 草家可如

イナツミ 小林太兵工

河に船を流れ

一登

深きやねる歌集

中浦の御守り
力也 不也 湖島

イナツミ 後津幸之助

新島也 酒を成
一升

イナツミ 宮沢正左門

福のよき月乃
おもしろい時多 一瓢

イナツミ 原重吉二門

佛都 仁科氏

山崎の御守り
丁の御守り 旗水

信上野村住若月氏

まじりて
おもしろい

佛都 一洋

火の御守り
おもしろい

一葉川、散る也



杖此昔

芦海



信陽長野住松木正晴

空くい鳥也
光よりもある

朝此昔、洋水



信喜光寺御印判師表直光

龍捲也

多き水

空くい鳥也
山

佛都山詩氏

同野田中小五郎

春風よせり水

雲母

竹の青くもり

同野原房左郎

あきこの月やみそひ

去新

清見井戸の水

同野遠藤鳥之捕

我子姑之むをくまかこの物の上南

深心

遠師子堂

古江柳菴

遠くはるかたの静寂

空の如く静か

如女

遠く利 辻をたぬ

上八丁 住

ある白紙

たぬくはるかたの静寂

如女

同

全 同連

うゑ果をゆいの 重藤

あつたはるかたの静寂

全 同連

果をゆいの 龍清

あつたはるかたの静寂

相之橋 琴松菴

あつたはるかたの静寂

あつたはるかたの静寂

朝雨のくもりも 西泉
春のきこふゆらちあ

相之嶋 洗耳亭

山月也 影くらげの
けりう 様 蝶 留月

一又キ村 原氏

すし 丸くちあふ 縁と
後月の 流岸

一全 山岸氏

小島村 金兒氏

月をまき風 舞しん 花 雪 中

全 奥村氏

あふ白 静花
澄乃 響も 流石也

全 清水氏

真由にけりあ
まぬ小春空 又 耕

身あはれ思ふ
うらなふ産より
梅邊

小島村本金子氏

枯座くしと
おのり
落葉もきよ
南邊

一全 藤沢氏

連
ゆきもや啼ふる
碎山人

腰村住 矢沢氏

キリ原 清林住

鼓子花也か
指月
思ひ出日のあひ

キリ原中村庄藏

明月のうき
古泉
晴る世は

キリ原山岸英作

こりく福て
保つて
驥桐

うさみちのなつり
あつちのやまの氷
良愛

キリ原村 住人

梅香やその庭の
空よりと結乃香

コシ村 長流軒

いそふれあしと
梅香
花のやまを登る

コシ村 山田基之助

あふれを愛ゆ
は月
らりるや
心太

コシ村 松本氏

情望の
あふれ
笑ひや
葉岳
あゆ人

コシ村 野村氏

あゆのなつり
あつちのやまの氷
あゆ

夕涼之柳に如き
之を以てしるす
楳濃

佛都住

合年之生
執りまの旨
廿五
佛都住

朝来り如如里一
堂をり如如生

佛都住

キナサ 徳武 太重

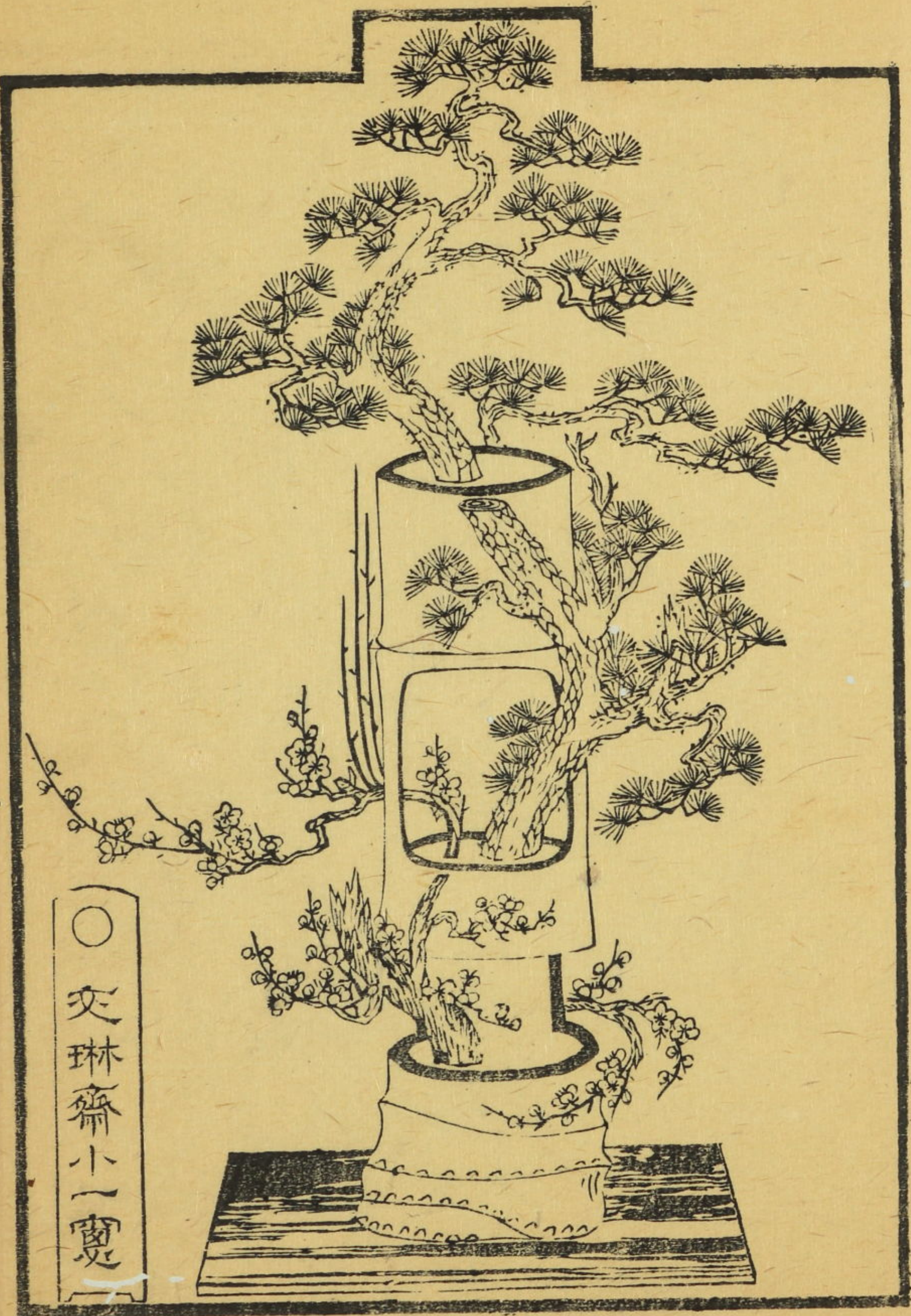
出船一之思
碓也 碓子鳥

三 余堂

如くし招き
うもし尾
禪園
如柳

文キ 梅林舎

さう申
し梅のさ
葉



○ 交琳齋小窓

入梅や早も待 梅山
 しるは品有の流

仏都 新田町

水音ハ子ノ 考老
 中取りあへ多鶴

仏都 牧野氏

卯の志や白文一草
 しらき色めりる

仏都 津山氏

晴々梅の耳はゆらゆら
しらしら梅月

ウエマツ青葉連

あまのこころしと
やまのゆら梅のまき
涼陰

全 同連

只時以風十
恒春
伝もよひがの母

全 同連

後行著、使も春也
梅の宿

イナツミ北川堂

イナクラ 新津氏

取崎の庭の
新中梅の花
和月

東条村 藤井氏

たの子のまき
今も時空
梅と

とがみの鶴よ ねる殿
よのまに みるまに

東条村花園氏

今朝のまに 柳塘
さきみけの 楊のまに

全 宮下氏

川まの ちり 夢心
まの 日の 侍免

日名村 善龍寺住

雲水 久住某堂

利根川 雲舟に 舞舟
急舟 下なる 心 湖 山

佛都住池田氏

後ある 花尔 岩池
出さる 以 福の 花

信長野住松木姓為親

雲霧の志けり 岩山
岩島也 猿の 酒

夏より秋は笑鳥をよみてあつた鳥をよみて

雲水 濱頼氏

南無とまげとまげ

お角力

高尾山

木の葉は揺るがし 三令
あつたまげとまげ

東京府 倉持氏

念仏寺 住

現今ゆめをいふとて 谷風
うらやまのうらやま

念仏寺 住人

秋はゆめをいふとて 日比谷の山

念仏寺 住人

あつたまげとまげ 妙法
あつたまげとまげ

遠富士の 后の月

晴きるんくう 重春

念仏寺村住

きの富成を製る盛くも福の花

文芳

全 住人

梅くの香紙を絶て 涼山
みちあるはるあひ

上ノ村 石及上

西寺尾村宮入氏

あつこく 減るぬ 陰高
色所く 苔の浮水

下高田村古松亭

燈眼あふの少家 逸松
うらまき ありくのち

保科言岡組竹内氏

風名船の市標 翠岩

なまき みるの月

霧の修心り以 踏造
あけたるは秋のふ

上高田村川端組

庭^{よた}の川^{かわ}草^{くさ}萩^{はぎ}も咲^さけは^は秋^{あき}休^{やす}

田文

仏卜位 仁科氏

ふきけり 松 萩
く 野萩の如

須坂住 久田氏

同所 拓植樂山

梅ありて 氣先のよき
むきけり方 松聲

同所 剣持松與入

松人の名 松の如
かみ采石 松

同所 小松盛昌

松の人の名 松の如
物 松の如

心乃名誠 きのをそ

度々 木の葉のりて申

真志

スサカ 舟島岳山

草花の柳のらの 白雪

あいのまことのね

同所 倉島初太郎

帆平風又少く 如木

まのまのまのまのま

同所 木村勝治

清きとぬえと心あり 松屋玉次郎

スサカ 羽生田氏桃源舎

中沢村松菴又不老居

佛教お伯

六十二家

身をとり 清きまの

まのま

おやのまの風

キナサ 碧石雲菴

島の鐘軍一白も 松屋

あゝせよ去風

心へ越えよ心へ 舞う花
よみよみよわよわらん

石村 寒岳園

お山の砂より 薙れ
よもぎふき草

仏ト 朶雲堂

踏むと福とあはれぬ 折物
柳のしるしをうけ

仏ト 月精舎

人の世よ人と産れて 御守勲

仏ト 市中菴

花と扱れ離るる 福菜
あまのさくらんぼ

仏ト 牛石軒

涼しきやあり時辰
あまのさくらんぼ

保科 峯村氏号月菴

空しく時をさぐる梅や暮

六十八齡

景季

仏ト 観忘居

たまふや松

持楽

清く堂の夢

仏ト

晴るゆき

ふしのむ

雪のふり

枯木

仏ト 仁科氏

中マ夕村寺田六三郎

末の宵

結修や

如心

水離る引あ戸

佛都 仁科氏

鏡をみる

梅氷

月の清く

佛都 一夢茶

くみたる

花臺

はるる

保科

生輝の周中世活や田植の礼 町奉行

清雪や損中修ふ年の一昨々 菅岩

多形もまゆ家の粒立木の芽か 逸松

波さねの根よつと修り雪の舞 響堂

佛都

ゆきゆきゆきゆき 聖寺の鐘の聲 荳外

足と地もまゆかへ修りやういり月とまゆ 梅塘

は積のうらまき凍 一本く雪 櫻葉

鬼の情もいささか 雪の音 榮孝

波さねや修り 花あはれなるか 何 麴く

四時

揺起にうたふめをまき 梅の礼 吉仙

印中よりいへる修りふと どの夏

そよよとぬのち民修り文弱

そよ月やぬのちいさきい修り

追悼歌

杉の影 杉を深やまき 流風 真砂居士

さる川の橋も影も白く芥

花巻

舟も白くも影も白くも白くも

影も白くも影も白くも影も白くも

うつろも白くも影も白くも影も白くも

若石館も白くも影も白くも影も白くも

洋水

空は白くも影も白くも影も白くも

たけくも影も白くも影も白くも影も白くも

うろくも影も白くも影も白くも影も白くも

梅の香も白くも影も白くも影も白くも

踏道

さる川も白くも影も白くも影も白くも

舟も白くも影も白くも影も白くも影も白くも

うろくも影も白くも影も白くも影も白くも

梅の香も白くも影も白くも影も白くも

一露

さる川も白くも影も白くも影も白くも

舟も白くも影も白くも影も白くも影も白くも

うろくも影も白くも影も白くも影も白くも

此集を枕福所のあつしう花版
わいて庫中あつしう埋まきしを

這圃清らて今人雅客の自存宝巻

を母りおひやけりしことり

百梅園

美とーや月をさるゑの

あつしう連

昔及句柄あつしうの古柳の山
たきしうらぬおちく微風
阿ねるは心おのしとはたき
集い子曲あつしうの望志を
あつしうあつしうあつしうあつしう
あつしうあつしうあつしうあつしう

寄るを阿のききも 女侍志守
嗣のわが風流は情は 之生所
死後のきき福たふす

重申晚秋 乃末の海神

荒井和尚尊前

於貞祥館 武田重木司

為再拜之上呈

